

家 庭

1 学習指導と評価の改善・充実

(1) 学習指導要領に基づいた教育課程の適切な編成・実施

普通教育における必履修科目「家庭基礎」、「家庭総合」及び「生活技術」においては、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目指し、人の一生と家族・福祉に関する内容や家庭生活を営むために必要な衣食住や消費生活などに関する知識・技術を総合的に身に付けさせることを重視している。

そのため、学んだ知識と技術を生かして各自の家庭生活や地域の生活に深い関心を持ち、課題を見だし、これを改善充実しようとする積極的な態度を育てることをねらいとして、問題解決的な学習である「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を必履修科目全てにおいて履修させることとしている。(次表参照)

各学校においては、学習指導要領に基づき、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じて教育課程を編成・実施するとともに、年間指導計画やシラバス及び評価計画を適切に作成し見直すなどして、学習指導と評価の改善・充実を図ることが大切である。

【必履修科目における重点目標と指導内容】

科 目	重 点 目 標	指 導 内 容
家庭基礎	少子高齢化における課題を踏まえ生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	網掛けは3科目に共通する指導内容である。 (1) 人の一生と家族・福祉 (2) 家族の生活と健康 (3) 消費生活と環境 (4) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動
家庭総合	生活に必要な知識と技術を習得させ、生活課題を主体的に解決できるようにさせる。	(1) 人の一生と家族・家庭 (2) 子どもの発達と保育・福祉 (3) 高齢者の生活と福祉 (4) 生活の科学と文化 (5) 消費生活と資源・環境 (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動
生活技術	生活と技術とのかかわりを考え、家庭生活を合理的に管理するために必要な生活技術を習得させる。	(1) 人の一生と家族・福祉 (2) 消費生活と環境 (3) 家庭生活と技術革新 (4) 食生活の設計と調理 (5) 衣生活の設計と製作 (6) 住生活の設計とインテリア (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 以上のうち(3)から(6)までの中から、生徒の興味・関心等に応じて、2又は3の項目を選択して履修できるようにする。

(2) 普通教科「家庭」の学習指導の課題とその解決に向けた取組

普通教科「家庭」の学習指導においては、「確かな学力」を育成するためには、『生活に必要な知識と技術を定着させるための指導』と『社会の変化に対応し生活課題を主体的に解決する能力を高める指導』を充実させることが大切であり、生徒の主体的な活動を重視し、実践的・体験的な学習指導を積極的に取り入れた指導内容・方法の工夫や、生徒の興味・関心を喚起し、課題解決能力やコミュニケーション能力を育成するための適切な題材の工夫が求められている。

本手引では、『基礎的・基本的生活技術の定着』のために、家庭科技術検定の活用を図った調理と被服縫製の技術の習得について示すとともに、『課題解決能力の育成』を目指し、年間指導を見通した「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の指導方法と評価の具体例を示す。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

(1) 年間指導計画の作成

次の表は、科目「家庭基礎」において、『基礎的・基本的生活技術の定着』と『課題解決能力の育成』を目指して作成した年間指導計画の例である。

教科名		家庭		科目名		家庭基礎		
科目目標		人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。						
履修学年		1学年		学科・コース				
単位数		2単位		授業形態		個別学習、グループ学習等		
教科書				副教材等				
評価規準		<p>【関心・意欲・態度】 人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【思考・判断】 人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。</p> <p>【技能・表現】 人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。</p> <p>【知識・理解】 人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p>						
学期	月	指導内容・単元・項目	予定時間	学習のねらい・目標				
				関	思	技	知	
前期	4	1 オリエンテーション (ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の取組)	2	・1年間の学習内容を理解させるとともに、課題解決学習に興味・関心を持たせ、その意義を理解させるとともに、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の取組について考えさせる。				
	5	(1)人の一生と家族・福祉 ア 生涯発達と家族 (7) 発達課題と各ライフステージの特徴	1	・生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題を踏まえて、男女が協力して家庭を築くことの意義と家族や家庭生活の在り方について考えさせる。				
		(イ) 家庭の機能と家族 (ウ) 生活設計 イ 乳幼児の発達と保育・福祉 (7) 乳幼児の心身の発達と生活 (イ) 親の役割と保育 (ウ) 子どもの福祉	1 2 2 2 2	・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの健全な発達のために親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。				
	7	【定期考査】 ウ 高齢者の生活と福祉 (7) 高齢者の心身の特徴と生活 (イ) 高齢者の福祉	1 2 1	・高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解させ、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。				
		2 学校家庭クラブ活動の実践計画作成 (夏季休業期間に実践)	1	地域の問題や課題を発見するとともに、その解決のために任意のグループにより、計画を立て、地域社会の充実向上を目指す態度を育成する。				
	8	3 学校家庭クラブ活動の実践報告会	2	夏季休業中に実践した内容について各クラスごとに報告し情報交換することにより、ボランティア活動への興味・関心を持たせる。				
	10	(2)家族の生活と健康 ア 食生活の管理と健康 (7) 家族の栄養と食事 (イ) 食品と調理 【定期考査】 1 家庭科技術検定食物4級調理実習 (ウ) 食生活の安全と衛生	5 2 2 1 8 2	・栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得させ、家族の食生活を健康で安全に営むことができるようにする。				
		イ 衣生活の管理と健康 (7) 被服の機能と健康 (イ) 被服材料の特徴と被服管理 2 家庭科技術検定被服4級被服製作 【定期考査】 ウ 住生活の管理と健康 (7) 家族の生活と住居 (イ) 住生活の健康・安全 4 ホームプロジェクトの実践計画作成 (冬季休業期間に実践)	3 2 5 1 1 2 2 1 5	・被服の機能と着装、被服材料、被服管理などに関する基礎的な知識と技術を習得させ、家族の衣生活を健康で快適に営むことができるようにする。 家庭科技術検定被服4級の実技試験を通して、ものづくりの喜びを体験させるとともに、縫製に必要な知識と技術を身に付けさせる。				
	後期	1	(3)消費生活と環境 ア 家庭の経済と消費 (7) 家族の経済生活 (イ) 社会の変化と消費生活 (ウ) 消費者の権利と責任 【定期考査】 イ 消費生活と環境 (7) 消費生活と環境とのかかわり (イ) 環境負荷の少ない生活への取組	2 2 2 2 1 2 1 2 1	・家庭の経済生活、社会の変化と消費生活及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できるようにする。			
		2	5 ホームプロジェクトのまとめと成果発表会	4	各家庭によって生活課題が多種多様であり、その改善方法もさまざまであることに気付かせ、課題解決できる実践的態度を育成する。			
3		1年間の学習のまとめ	1	計 70				
				は、重点となる評価の観点				

網掛けで示した 1～5については、年間を通して行う「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の指導項目である。
1、2については、調理と被服縫製の生活技術の定着を図るため、家庭科技術検定の活用を図った指導項目である。
「学習のねらい・目標」にある 及び は、「指導内容・単元・項目」の 2～5、1、2にそれぞれ対応している。

(2) 『基礎的・基本的生活技術の定着』を図る指導の工夫

社会的自立を目指す高校生にとって生活技術を身に付けることは、自らの生活を豊かに営むための基礎的・基本的な力となる。そこで、生徒一人一人の生活体験や既習内容による技術の差が影響しない家庭科技術検定「食物」「被服」のそれぞれ4級の評価基準を活用し、生活技術の定着を図る取組例について、【表1】【表2】に示す。

【表1】家庭科技術検定を活用し、調理技術の定着を図る取組例(前頁年間指導計画 1)

本時(2時間)の目標	家庭科技術検定食物4級の実技試験(1)と調理実習を通して、調理に必要な基礎技術の定着を図る。			評価規準	
過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準	
導入	・本時の学習内容を確認する。 ・家庭科技術検定食物4級の実技試験について説明する。 ・実技試験を開始する。 ・枚数を教員が数え、計測用紙に結果を記入させる。 ・調理実習「豚汁・白飯・きゅうりの酢の物」について手順を説明する。	・本時の学習内容を知る。 ・家庭科技術検定食物4級の実技試験について理解する。 ・実技試験を行う。 ・きゅうりを計測用紙に並べる。(2)	・実習に適した服装が生徒同士確認させる。 ・安全に実技試験が行えるよう調理台の片付けを指示する。 ・目標枚数を計測用紙に記数させる。 ・合格枚数に達するまで試験を繰り返すことを伝え、目標を持たせる。 ・調理の基礎技術や切る技術は反復練習で上達することを実感させ、練習に意欲的に取り組ませる。 ・材料は、豚肉・大根・人参・玉葱・馬鈴薯・牛蒡・こんにゃくで、基本的な切り方のそぎ切り・銀杏切り・ささがき・くし型切り・乱切りを習得させる。	【関心・意欲・態度】 生徒自身が本時の具体的な目標をもって意欲的に取り組もうとしているか。 <評価方法> 生徒観察・計測用紙	1 きゅうりの半月(輪)切り(厚さ2mm以下)を30秒間で50枚(40枚)以上切ることが合格基準である。
展開	・調味料の計量方法(3)を説明する。 ・材料の手ばかりを体験させる。 ・材料の重さを計量させる。 ・材料の切り方を説明する。 ・調理させる。 ・豚汁の塩分濃度を測定し、味見させて汁物の塩分濃度を理解させる。 ・盛りつけをさせ、食事マナーについて説明する。 ・できばえについてグループで話し合わせる。	・調味料の計量方法を身に付ける。 ・材料を手ばかりした後、材料の実際の重さを計量し、ワークシートに記入する。 ・切り方を理解する。 ・豚汁をつくる。 ・豚汁の塩分濃度を測定し、味見させて汁物の塩分濃度を理解する。 ・盛りつけをして試食する。	・材料は、豚肉・大根・人参・玉葱・馬鈴薯・牛蒡・こんにゃくで、基本的な切り方のそぎ切り・銀杏切り・ささがき・くし型切り・乱切りを習得させる。	【技能・表現】 家庭科技術検定食物4級評価基準(4)による。 【思考・判断】 次の調理手順を考えながら効率よく作業していたか。 <評価方法> 調理実習レポート(次時の授業において提出させるものである。)	2 計測用紙の紙の上にラップを敷き、後できゅうりを調理に活用できるようにする。 3 塩・砂糖・醤油・酢の計量を適する計量器を用いて行う。
まとめ	・次時の予告をする。 ・調理実習レポートの記入について説明する。	・次時の学習内容や調理実習レポートの記入のしかたを理解する。	・盛りつけ方や食事マナーを考えさせ試食させる。 ・話し合いの内容を調理実習レポートへ記入させる。 ・調理実習レポートは次時の課題とする。		4 包丁の使い方、速度、できばえについての基準が示されている。

【表2】家庭科技術検定を活用し、縫製技術の定着を図る取組例(前頁年間指導計画 2)

単元(6時間)の目標	家庭科技術検定被服4級の実技試験の題材「小物入れ」の製作及びを通して、ものづくりの喜びを体験し、被服縫製技術を定着させる。			評価規準	
過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準	
1時間目から5時間目	・本時の学習内容の確認をし、練習課題(1)を指示する。 ・小物入れ(2)製作の手順を確認させる。 ・次のいずれかの全体説明を行う。 縫い代の付け方についてしつけについてミシンの使い方について なみ縫いについてまつり縫いについて半返し縫いについてボタン付けについて糸の始末についてひも通しについて仕上げのアイロンのかけ方について	・本時の学習内容を知り練習課題に取り組む。 ・小物入れの製作手順を理解する。 ・教師の説明を理解し、次の作業に取り組む。 縫い代を付ける。 しつけをかける。 ミシン縫いを行う。 なみ縫いについてまつり縫いを行う。 半返し縫いを行う。 ボタンを付ける。 糸を始末する。 ひもを通す。 仕上げのアイロンをかける。	・練習課題の取組状況に応じて、技術面の個別指導を行う。 ・小物入れの製作が検定試験の題材であることを理解させ、確実な技術の習得を目標に作業に取り組ませる。 ・技術が未熟な生徒に対するアドバイスを適切にしながら机間巡視をする。 ・早くできた生徒には、刺繍などのデザインを工夫させるとともに、遅れ気味の生徒へのアドバイスを依頼する。 ・アイロンの安全な取扱いについて留意する。	【思考・判断】 小物入れの製作の手順を考えることができる。 <評価方法> 自己評価表 【技能・表現】 小物入れを製作することができる。 <評価方法> 製作作品	1 毎時の授業の導入で30秒間玉留めや運針などをさせることも指導の工夫として考えられる。 2 小物入れの製作は、被服材料の特徴と被服管理の単元で扱う。
6時間目	・自己評価表を完成させて、その後提出させる。 ・次時の予告をする。	・自己評価表を完成させて提出する。	・後片付けの点検を実施し、常に整理整頓ができるよう習慣付ける。	【技能・表現】 技術検定の評価規準による評価を行う。 <評価方法> 技術検定被服4級の作品	3 小物入れの製作を検定時間35分間で行う。

(3) 『課題解決能力の育成』を目指した指導の工夫

自ら考え、自ら判断し、問題をよりよく解決しようとする態度と能力を育むには、「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を年間指導計画に明確に位置付けた上で、単元ごとに指導内容を工夫することが大切である。特に、標準単位2単位の「家庭基礎」においては、他の科目より単位数が少ないことから、効果的に学習を進めることが求められる。このため、夏季・冬季休業中の課題と組み合わせたり、他の教科・科目の指導や学校行事及び総合的な学習の時間等の関連を図るなどの工夫が必要である。

【表3】～【表7】は、「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の指導において、視聴覚教材を活用したり、長期休業中の課題を取り入れた指導の工夫例である。

【表3】オリエンテーション（2時間）における指導と評価

1 オリエンテーション（2時間）		指導の工夫	年度始めにホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の実践についてビデオやガイドブックを活用し説明することで、より理解を深めさせる。	
本時の目標		1年間の家庭基礎の学習内容とホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について理解を深める。		
過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	・本時の学習内容の確認をする。 ・1年間の学習内容について説明する。 ・課題解決学習について説明する。	・本時の学習内容を知る。 ・1年間の学習内容について理解する。 ・課題解決学習について理解する。	・シラバスを提示する。 ・全国学校家庭クラブ連盟(FHJ)ガイドブックや発表大会のビデオを活用する。 ・ワークシートに具体的な課題を記入させるよう機会巡視等で個別に指導するようにする。	【関心・意欲・態度】 1年間の学習内容やホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動について関心を持つことができたか。 <評価方法> 生徒観察 【思考・判断】 我が家や地域の課題について思考を深め、課題発見ができたか。 <評価方法> ワークシート
展開	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について説明する。 ・地域や家庭の課題について考えさせる。	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブの活動について知る。 ・地域や家庭の課題について考え、ワークシートに記入する。	・ワークシートに記入できなかった部分は、宿題とする。	
まとめ	・今後の取組のスケジュールの確認をさせる。	・今後の取組についてワークシートにまとめる。		

【表4】学校家庭クラブ活動の実践計画作成（1時間）における指導と評価

2 学校家庭クラブ活動の実践計画作成（1時間）		指導の工夫	グループ討議により、夏季休業中の実践計画が、より地域の課題解決の方策として適切か、思考を深めさせることができる。	
本時の目標		地域の問題・課題を見出し、課題解決のために自分たちができることを討議し、学校家庭クラブ活動の具体的な実践計画を立てる。		
過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	・本時の学習内容の確認をする。 ・1で記入したワークシートを配布し、グループで討議させる。	・本時の学習内容を知る。 ・実践計画書の項目（題目・実践理由・具体的実践内容等）をもとにグループ討議する。	・実践計画書の作成が進まない生徒に対しては個別指導を行う。 ・討議が進まないグループには適切なアドバイスを提出する。	【思考・判断】 地域の課題解決の具体的な方策について思考を深めているか。 <評価方法> 実践計画書・討議中の生徒観察 【知識・理解】 留意点等を理解し、実践計画書に記入し、実践できたか。 <評価方法> 実践計画書・実践後の報告内容
展開	・グループごとの実践計画書を完成・提出させる。	・実践計画書に記入し、提出する。	・具体的事例を示しながら説明する。	
まとめ	・実践する際には安全に留意し、危機管理意識が必要なことを説明する。	・実践の際には安全に心がけ、常に危機管理意識を持つことが必要であることを理解する。		

【表4】学校家庭クラブ活動の実践計画を作成した後の夏季休業中において、自由グループごとに学校家庭クラブ活動を実践し、ボランティア体験の機会としている。夏季休業明けにその実践内容を報告し合う取組例を、次の【表5】に示した。

【表5】学校家庭クラブ活動の実践報告会（2時間）における指導と評価

3 学校家庭クラブ活動の実践報告会（2時間）		指導の工夫	夏季休業中の実践を報告し相互評価することにより、表現力の育成と次の取組への意欲の向上につなげることができる。	
本時の目標		学校家庭クラブ活動の実践について、各グループの生徒個々に報告する。またそれぞれの取組を相互評価する。		
過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	・本時の学習内容の確認をする。 ・発表準備をさせる。	・本時の学習内容を知る。 ・発表準備をする。	・発表ができない生徒に対してはグループ内で協力するよう助言する。	【技能・表現】 実践内容を聴衆にわかりやすく報告することができたか。 <評価方法> 発表内容・態度 【関心・意欲・態度】 報告に対し積極的に質問をするなど興味を持って聞いているか。 <評価方法> 発表内容・態度
展開	・各自に取組内容について一人1分の報告をさせる。 ・相互評価をさせ、相互評価表に記入・提出させる。	・実践報告を行う。 ・相互評価表を完成させて提出させる。		
まとめ	・次時の予告をする。	・次時の内容を知る。		

【表6】ホームプロジェクトの実践計画作成(1時間)における指導と評価

4 ホームプロジェクト実践計画作成(1時間)		指導の工夫	実践計画を考えることで、冬季休業中に取組むホームプロジェクトの実践が、生活課題の解決を目指した創意工夫あるものに行うことができる。	
本時の目標		我が家の問題・課題を見出し、課題解決のために自分ができることを考え、ホームプロジェクトの具体的な実践計画を立てる。		
過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	・本時の学習内容の確認をする。 ・1で記入したワークシートを配布し、各自の家庭における課題を考えさせる。 ・課題解決の方策を考えさせる。	・本時の学習内容を知る。 ・実践計画書の項目(題目・題目選定の理由・具体的実践内容等)をもとに考える。 ・実践計画書に記入し、提出する。	・実践計画書の作成が進まない生徒に対しては個別指導を行う。 ・解決の方策が見つからない生徒に対しては、同じような課題を持つ生徒に意見交換を行う。	【思考・判断】 我が家の課題解決の具体的方策について思考を深めているか。 <評価方法>実践計画書
展開	・実践計画書を完成・提出させる。	・実践計画書を完成・提出する。		【知識・理解】 実践する際の注意点を理解し、実践計画書に記入することができたか。 <評価方法>実践計画書
まとめ	・実践する際の注意点を説明する。	・実践する際の注意点を理解する。		

【表7】ホームプロジェクトのまとめと成果発表会(4時間)における指導と評価

5 ホームプロジェクトのまとめと成果発表会(4時間)		指導の工夫	冬季休業中の実践を報告し、相互評価することにより、表現力の育成と次の生活課題の解決を目指す意欲の向上につなげることができる。	
本時の目標		ホームプロジェクトの実践について、生徒個々に分かりやすく報告する。またそれぞれの取組を相互評価することによりいろいろな課題解決の方策があることに気付く。		
過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	・本時の学習内容の確認をする。 ・発表準備をさせる。	・本時の学習内容を知る。 ・発表準備をさせる。	・発表ができない生徒に対してプライバシーに配慮しつつ、個別指導を行う。	【技能・表現】 実践内容を聴衆にわかりやすく報告することができたか。 <評価方法>発表内容・態度
展開	・一人3分間で実践発表をさせる。 ・発表を聞きながら相互評価をさせる。 ・相互評価表を完成・提出させる。	・実践発表する。 ・発表を聞きながら評価する。 ・相互評価表を完成・提出する。	・相互評価規準は家庭クラブの評価規準を参考とする。【表9】参照	【思考・判断】 他の人の実践発表を聞き、いろいろな課題解決の方策があることに気付くことができる。 <評価方法>相互評価表
まとめ	・課題解決型学習の総括を行う。	・課題の解決が陣営において大切であることを知る。		【関心・意欲・態度】 報告に対し積極的に質問をするなど興味を持って聞いているか。 <評価方法>発表内容・態度

(4)「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の評価の実際

【表8】個人評価表の例

出席番号()氏名()	時	関	思	技	知
Aは(1点)、Bは空欄(0点) Cはx(-1点)と記入する。	間	意	判	術	理
		態	断	表	
1 オリエンテーション					
2 学校家庭クラブ活動の実践計画作成					
3 学校家庭クラブ活動の実践報告会	1				
	1				
4 ホームプロジェクト実践計画作成	1		x		
	1				
5 ホームプロジェクトのまとめと成果発表会	1				
	1				
小 計	10	2	0	1	0
合 計	10			3	
特記事項	・学習内容に高い意欲と関心を持ち、積極的に実践していた。				

【表9】ホームプロジェクトの評価規準例

評価規準例	関	思	技	知
高等学校家庭クラブ連盟ホームプロジェクトの評価基準を参考にして作成。	意	判	術	理
	態	断	表	
課題設定が適切である。 ・課題選択の理由が明確である。 ・目標がはっきりしている。 ・今日的な社会状況を視野に入れている。				
研究の計画や進め方が適切である。 ・目標を達成するための方法(手段・経費・時間等)の検討がなされている。 ・科学的・社会的視野で研究を進めている。 ・計画に沿って実施され、その経過が明確になっている。				
研究内容が充実している。 ・創意工夫がみられ、意欲的な取組がなされている。 ・家族の協力や理解が得られている。 ・家庭科の学習が生かされた内容である。				
目標が達成されている。 ・目標に沿って努力をしている。 ・家庭生活の充実向上に役立っている。 ・今後の課題が明確にされ、発展性がある。				
発表内容と方法が適切である。 ・内容を明確に捉えて発表することができる。 ・資料活用や表現方法が適切である。 ・発表態度がよい。				

評価規準を生徒に事前に示すことにより、学習意欲の向上や活動目標へつなげることができる。また、この評価規準を活用して自己評価や相互評価の項目として設定することもできる。

Topic

家庭科における法教育とのかかわり

法教育とは？ 法律専門家ではない一般の人が、法や司法制度及びその基礎になっている価値を理解し、法的なものの考え方を身に付けるための教育。

法教育の特色 法律専門家ではない一般の人が対象であること。
法律の条文や制度を覚える知識型の教育ではなく、法やルールの背景にある価値観や司法制度の機能、意義を考える思考型の教育であること。
社会に参加することの重要性を意識付ける社会参加型の教育であること。

学校教育における法教育
我が国の学校教育では、学習指導要領に基づき、公民科、家庭科、総合的な学習の時間等において、法やきまりの意義、司法の仕組みなどについて理解させ、それらを自分の生活に生かすとともに、社会の一員として法やきまりに基づいてよりよい社会の形成に主体的、積極的にかかわろうとする態度などを育成している。

家庭科における法教育の実践
生活課題を主体的に解決し、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる学習にかかわって法律が取り上げられ、生活に生かされている。
法務省「法教育研究会」報告書等より抜粋

家庭科の学習における法教育とのかかわり（取組例）

必履修科目「家庭基礎」においては、次に示す「家庭の経済と消費」（消費者基本法等）や、「人の一生と家族・福祉」（民法等）の指導の際に法教育に取り組むことができる。

時間	指導項目・ねらい	授業の概要
1	家庭の経済と消費 (ア) 家庭の経済生活 家庭の経済計画や予算生活の必要性を認識させ、小遣い帳の演習などを通して主体的な家計管理と経済計画の重要性を理解させる。	家庭の生活を支える収入の安定と支出の運営などの家計の管理、家庭経済と国民経済のかかわりについて、小遣い帳ワークシートの記入をさせ、家庭の経済計画や予算生活の必要性を認識させる。
2	(イ) 生活の変化と消費生活 社会の変化と現代の消費生活の課題、消費生活及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できる力を身に付けさせる。	社会の変化に伴う生産や流通、販売方法や支払い方法、消費者の購買行動や消費構造、あふれる生活情報などさまざまな問題が発生している現状について新聞等を活用し理解させ、消費生活の課題について考えさせる。
3	消費者問題を「契約」の視点からとらえ、消費者保護の法律や制度の必要性と消費者の責任について考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者契約法 ・消費者基本法 ・民法 ・クーリングオフ制度 ・重要事項説明書 ・借地借家法 ・宅地建物取引業法 </div>	「一人暮らしの住まいの契約」を例に契約の意味と留意点を考えさせる。 「契約クイズ」を通して、契約を解消できるときできないとき、契約が成立する条件を認識させる。 「ロールプレイング」を通して、契約について理解させ、契約に伴い法律上の権利と義務が発生することを理解させる。
4	(ウ) 消費者の権利と責任 消費者が不利な条件のもとで契約を結んだ場合の解消できる制度があることや苦情を相談できる場所を設置していることを理解させる。 消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動をとっていかうとする態度を養う。	消費生活センターの相談等の資料を活用し、消費者問題の発生の背景について考えさせ、「消費者保護基本法」を基に、消費者の権利と消費者保護に関する施策について理解させる。
5	消費者被害の事例を通して消費者被害の状況を理解させ、消費者被害が起こる原因について考えさせる。 契約トラブルとその対策、契約に関する責任を自覚し、悪質商法被害にあわないための注意点を考えさせる。	消費者信用について理解し、利用に関しては慎重に行う意識とそれに対応できる判断力が求められていることを理解させる。
6	クレジットカードの利用など消費行動の複雑化や多様化などについて理解させる。 消費者契約法について理解させ、法やルールを守ることと社会の秩序との関係について理解する。	消費行動における意志決定の過程が人により異なることをディベートを通して認識させる。 消費生活における生活情報収集・選択と活用について理解し、自分の消費生活に活用できる技能を身に付けさせる。

指導上の留意事項等

関係機関（裁判所・法務省・日本弁護士連合会・日本司法書士連合会等）による取組を活用するなどして、生徒に実感をもって理解させるよう適切な教材の充実や指導法の工夫が必要である。また、生徒の調べ学習においては、次に示したWebページなどに、法律に関するQ & A やトラブル対応などの事例が掲載されているので参考となる。

参考になるwebページ

内閣府国民生活センターホームページ <http://www.kokusen.go.jp>
 経済産業省 <http://www.meti.go.jp> 日本銀行 <http://www.boj.or.jp/>
 金融広報中央委員会 マネー情報 知るぽると <http://www.saveinfo.or.jp/>
 (社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 <http://www.nacs.or.jp>